

別紙 学術研究の成果の概要

①書籍「子どもに貧困を押しつける国・日本」にて報告した点

0歳から19歳の子どもが世帯所得（貧困状況）によって利用している健康保険の違いがあることが判明した。特に、貧困な子どもの51.7%が国保を利用していることが分かった。

②論文「生活困窮状況にある子育て家族の貯蓄などについて：国民生活基礎調査の2次分析を通して」にて報告した点

当初、貧困状況にある世帯における世帯ごとの貯蓄の状況、税・社会保険料負担状況、保育の利用状況等との関連性を調査しようとしたが、税・社会保険料負担状況は、税負担額と社会保険料負担額が切り離されたデータとなっておらず、また保育の利用状況も子どもの年齢が0-5歳とまとめられているため、ともに分析ができなかった。このため、貯蓄額と関連性が強いと予想された、借金額、支出額などとの関連性を分析した。また、それらと生活意識との関連性を調べた。結果として以下の点が判明した。

- (1) 子どものいる貧困世帯では、貯蓄額でも子どものいる非貧困世帯に比べ、かなり少なく、深刻な状況が伺えた。
- (2) 多くの子どものいる貧困世帯では、支出額が収入額を上回っていた。しかし、非貧困世帯にくらべ子どものいる貧困世帯は借金額は多くなかった。
- (3) (2) のような世帯では、生活意識からも困窮状況が深刻な点が伺えた。

③「なぜ日本の子どもは貧困か」では、②の論文の一部結果を使用し、子どものいる貧困世帯の所得と支出、貯蓄、借金の関係について報告した。